

# 動詞 *comprendre* の意味と構文の記述的研究

—フランス語話し言葉コーパスの分析から—

## La description syntaxique et sémantique du verbe *comprendre*

—une analyse du corpus français parlé—

國末 薫

KUNISUE Kaoru

東京外国語大学博士前期課程

Master's Program, TUFS

ふらんぼー(Flambeau) vol.46 2020, p.145-164.

原稿受理 2020-11-26 終版 2021-02-01

抄録

本研究は、フランス語の多義的な動詞 *comprendre* を対象とし、その意味と用法を記述することを目的としている。フランス語会話コーパスから抽出した 492 例を対象に、*comprendre* の構文を分類し、補語の特徴、動詞と補語の関係性、そしてそれらから導かれる動詞の意味を記述した。調査の結果から、*comprendre* の物理的意味、認知的意味には構文上の明確な差異があることが判明した。さらに認知的な意味は、動詞との結びつきが強いタイプと挿入句のように結びつきが弱いタイプに分類された。

### Summary (Résumé)

Notre but est de décrire les spécificités sémantiques et syntaxiques du verbe *comprendre*. Nous avons catégorisé 492 occurrences de ce verbe en fonction des caractéristiques du complément, et de la signification (qui dépend de la relation verbe - complément). Nous avons constaté une différence entre le sens physique et cognitif du verbe, le sens cognitif pouvant être divisé en deux catégories selon la force de la relation (forte ou faible) verbe - complément.

キーワード：動詞 *comprendre*、動詞意味論、話し言葉フランス語、会話コーパス分析

© ふらんぼー Flambeau 46 (2020) pp.145–164.

183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学フランス語研究室

183-8534 French Section, Tokyo University of Foreign Studies, 3-11-1

Asahi-cho Fuchu City, Tokyo

本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>



## 1 はじめに

フランス語の動詞 *comprendre* は、使用される頻度が高く、代表的な認知動詞であるにもかかわらず、これまでこの動詞を中心に扱った研究が十分に進められてこられなかった。動詞 *comprendre* を統語的な側面から見ると、直接目的語として、名詞句や従属節、間接疑問文、*ce que* で始める節などの様々な要素を取ることができる。また、意味的な側面について見ると、含むことを表す物理的な意味から知的な理解や感情を伴った理解など様々な類の理解まで表すことができ、同じ語源の英語の動詞 *comprehend*<sup>1</sup> よりも、多様な意味を持っている。更に、*que* 節に従える用法に限って見れば、直説法と接続法の両方を導くことができ、どちらを導くかで意味が異なることがこれまでの研究でも指摘されている。

動詞 *comprendre* の意味と構文については、*que* 節に従える用法を中心に研究が行われているが、*comprendre* の構文と意味の関係性について、十分な記述はこれまでなされていない。本研究は、フランス語会話コーパスにおいて、*comprendre* の使用される用例を観察し、動詞 *comprendre* の様々な意味を構文との関係性から記述することを目的とする。

本研究が分析の対象としたのは、東京外国語大学が 2005 年から 2011 年にエクス・マルセイユ大学で録音したフランス語会話のデータ(以降、ORFÉO での名称にならって、TUFCS コーパスと呼ぶ)である。このコーパスのうち、現代フランス語の書き言葉と話し言葉のデータと検索ツールを提供するプラットフォーム ORFÉO (Outils et Ressources sur le Français Ecrit et Oral)<sup>2</sup>上で公開されている 77 個の録音データから *comprendre* の実例を抽出した。

本稿では、分析に先立ち、まず、動詞 *comprendre* の辞書の定義とこれについての先行研究を検討する。*comprendre* についての先行研究は、意味のみを扱ったもの、*que* 節の構文と意味について扱ったもの、挿入句について扱ったものに分けられる。

第 4 節以降は、動詞 *comprendre* の意味と構文について、TUFCS コーパスの実例を分析し、記述していく。動詞 *comprendre* の意味は、大きく分けると、「含む」を表す物理的な意味と「理解」を表す認知的な意味の 2 つがある。まずは TUFCS コーパスにおいて、物理的な意味がどのように使われているのかを検討する。次いで、TUFCS コーパスでの頻度が多かった「理解」を表す意味に注目し、*comprendre* が取り得る構文別に意味的、統語的特徴を記述する。本研究では、直接目的語が名詞句の場合、節の場合、そして、挿入句的用法の 3 つに分けて考察した。

---

<sup>1</sup> ジーニアス英和辞典 (2014: 434) によると、*comprehend* は、否定文で用いられることが多く、「〈人、物、事(の性質や意味)〉を(十分に)理解する」、「〜を含む」、「〈地域・演説などが〉…に及ぶ」などの意味を持つ。英語では、一般的に、「理解する」を示すには、類義語である *understand* が用いられる。*understand* は、語源は異なるが、事実の理解と気持ちの理解など多様な理解を表せる点で *comprendre* と共通する部分がある。一方で、*comprendre* と異なり、辞書では自動詞としての機能も多様に記述されている。(ジーニアス英和辞典 2014: 2271)

<sup>2</sup> ORFÉO の詳細については、BENZITOUN et al. (2016) を参照のこと。

## 2 先行研究

### 2.1 辞書の定義

ここでは、*Trésor de la Langue Française informatisé*<sup>3</sup>（以下、TLFi）で *comprendre* の意味と構文がどのように分類されているのかを見ていく。以下の表に示すように、動詞 *comprendre* は物理的な意味と認知的な意味の 2 つに大きく分けられている。その上で物理的な意味は 2 つに、認知的な意味は 5 つに分類されている。認知的意味は、理解の過程の違いによって分類されている。

表1: 物理的意味 [容器と中身の量的な関係]

	TLFiの定義	TLFiに記載されている構文
1 [主語は物]	構成要素をそれ自身として持っていること	Comprendre telle chose, telle personne
2 [主語は人]	あるカテゴリーに入らせること	Comprendre qqn/qqc. dans/sous qqc.

表2: 認知的意味 [精神的な機能とその作用を受ける物との思考の質的な関係]

	TLFiの定義		TLFiに記載されている構文
1 [習得した反射、知識の現実化]	談話のレベルで、ある記号と記号内容である物との意味の関係性を知性の面で捉えること		Comprendre qqc, comprendre qqn (comprendre ce que dit qqn).
2 [思考の努力によって]	a	ある物に結びつき、それを説明するものについて明快な考えを獲得すること	Comprendre qqc. (à qqc.)
	b	ある物について観念的で個人的な着想を得ること	Comprendre qqc. de telle façon, manière de comprendre (telle chose)
3 [直感から、自発的な理解の中で]	a	ある物の実情に納得したり、その重要性を自覚したりすること	Comprendre qqc.
	b	感情的または精神的な交換から、ある人やある物をその根本的な性質の真理を把握すること	Comprendre qqn, qqc.

(TLFi: *Trésor de la Langue Française informatisé* を基に筆者が作成)

<sup>3</sup> TLFi は、ATILF が Frantext に基づいて作成した辞書である *Trésor de la Langue Française* を電子化し、オンラインで検索できるようにしたものである。TLF は、19 世紀と 20 世紀に使用された語彙の定義を記している。

TLFi の観察から、いずれの意味も「comprendre + 直接補語ないしは目的語」の構文を持つことができる点で、comprendre の意味を決定する上で、目的語の語彙的な特徴が重要な役割を果たしていることが考えられる。

## 2.2 comprendre の意味

comprendre の意味を検証した先行研究として、まず、Sakagami (2012) が挙げられる。この研究では、日本語の認知動詞である「分かる」との対比関係で動詞 comprendre の意味が考察されている。対訳コーパスの検証の結果、comprendre には、「分かる」が持つ意味のうち、「Acquisition de connaissance」「知識の獲得」、「Compréhension」「理解」、「Supposition」「推測」の3つの意味を共有していることを明らかにしている。

それ以外の研究は、comprendre を全体的に扱うのではなく、主に動詞 comprendre が que 節を伴う際の意味変化について扱っている。このような研究として、Damourette et Pichon (1911-1936) と Baunaz (2017) の研究が挙げられる。いずれも、comprendre que に続く従属節の動詞が直説法である場合と接続法である場合で、主節の comprendre の意味が異なることを指摘している。

Damourette et Pichon (1911-1936) によると、comprendre que に後続する従属節の動詞に直説法が用いられる場合 (1)、主節に用いられる comprendre は、事実の存在を認識することを表す。この場合、comprendre は、diagnostiquer, reconnaître と同じような意味を持つ。一方で、comprendre que に後続する従属節の動詞に接続法が用いられる場合 (2)、既に知られ、認められている事実に対する判断ではなく、事実の原因を理解することを表す。この場合、comprendre は、concevoir と同じ意味を持つ。

(1) COMPRENEZ donc que je suis jaloux, jaloux !

(P. Veber, *Qui perd gagne*, III, 2. cité dans Damourette et Pichon 1911-1936: 476)

(2) On COMPRENDRA que je m'étende un peu sur ce mince épisode.

(Verlaine, *Confessions*, II, 12 ; p. 157. cité dans Damourette et Pichon 1911-1936: 476)

Baunaz (2017) の研究も comprendre que の後に直説法と接続法のどちらが用いられるかで意味が異なることを指摘している。一方で、Baunaz (2017) は、主節における動詞 comprendre の意味特性が直説法と接続法の選択に関係しており、主節の動詞が持つ「感情」の意味特性が従属節の動詞を接続法にすると報告している。

Baunaz (2017) は、comprendre が認識の動詞 admettre のような意味だけを持つ場合、後続する従属節の動詞は、直説法になると報告している。この意味は、英語に置き換えると、realize に相当することが指摘されている。

- (3) Rafa comprend que Roger redevient numéro 1  
 Rafa understands that Roger turns.IND number 1
- |   |               |
|---|---------------|
| a. but he is wrong (he = Rafa)                    | (non-emotive) |
| b. #but it makes him sad (him = Rafa, it=realize) | (emotive)     |
- (Baunaz 2017: 20)

(3)の例が示すように、*comprendre* が認識の意味を持つ場合、Rafa の認識の正誤について言及している a の文が続くことはできるが、Rafa の感情について言及している b の答えはこの場合正しくない。Baunaz (2017) は、このような認識的な意味を持つ *comprendre* を修飾できるのは、*intelligemment* などの知的な方向づけをする副詞であると指摘している。

一方で、*comprendre* が感情叙述的な意味を持つ場合、従属節の動詞は接続法になる。Baunaz (2017) は、Damourette et Pichon (1911-1936) と同様に、*comprendre* のこの意味は別な動詞に置き換えると、*concevoir* と同じ意味を持つと指摘している。

- (4) Rafa comprend que Roger redevienne numéro 1  
 Rafa understands that Roger turn.SUBJ number 1
- |   |               |
|---|---------------|
| a. #but he is wrong (he = Rafa)                     | (non-emotive) |
| b. but it makes him sad (him = Rafa, it=understand) | (emotive)     |
- (Baunaz 2017: 20)

(4) の例は、従属節が直接法になる (3) の例とは対照的に、認識の正誤について言及している a の文を後続させることは誤りとなるが、感情について言及している b の文は後ろに続くことが可能である。*comprendre* が感情を伴う意味を持つ場合、*tellement* などの感情の程度を表す副詞が修飾することができる。

Baunaz (2017) は、動詞に「感情」の意味がある場合、接続法が選択されると述べている。一方で、動詞に「感情」という意味を付与する要因については議論されていない。本稿では、動詞 *comprendre* の意味と構文に注目するため、Damourette et Pichon (1911-1936) と Baunaz (2017) で指摘された、従属節の法により主節の *comprendre* の意味が異なることに注目する。

### 2.3 挿入句に用いられる *comprendre*

Blanche-Benveniste (1989) は、*que* 節を従える動詞に、直接目的語を支配する用法である *verbes recteurs forts* (支配力の強い動詞) と直接目的語を支配せず、発語的動詞としての機能を持つ *verbes recteurs faibles* (支配力の弱い動詞) があることを指摘している。この研究では、*croire*, *dire*, *paraître* などの動詞が *verbes recteurs faibles* の用法を持つことが指摘されている。Blanche-Benveniste (1989) によると、*que* 節を従える動詞の中でも、接続法を従える動詞は、*verbes recteurs faibles* として機能しない。し

かしながら、直説法と接続法の両方を従える可能性のある動詞の場合、直説法の用法のみ、*verbes recteurs faibles* の用法を持つ場合がある。

さて、*comprendre* は、*que* 節を従えることができることから、*verbes recteurs faibles* になる可能性を持っているが、実際にはどうなのだろうか。Andersen (2007) は、*comprendre* が、*savoir* や *voir* に比べ使用頻度が少ないものの、直説法現在形二人称の肯定形 (*tu comprends, vous comprenez*) において談話標識としての機能があることを指摘している。このような場合、*comprendre* の意味の弱化が起こり、代名詞化が不可能になる。また、談話標識の用法は、文のどこに置かれるかで変化する。(5)のように文頭に置かれた場合、新しい話題を導入する役割を果たす一方、(6)のように文末に置かれると情報の終わりを示す役割を持つ。

(5) /tu comprends (je :,j'ai :) le recul que j'ai c'est :-...

(Chef opérateur, 33, 8. cité dans Andersen 2007: 23)

(6) /au bas du mur alors ça c'est un problème moi je j'ai pris là-dessus vous comprenez, je (XXX, j'ai pas)...

(Maçon, 42,10. cité dans Andersen 2007: 23)

更に Dostie (2004: 69) も、動詞 *comprendre* は、*je comprends, tu comprends, vous comprenez, comprenez, comprends-tu, comprenez-vous* の形で談話標識として機能すると指摘している。

### 3 研究方法

先行研究では、*comprendre* について、直接目的語を従える用法のみならず、直接目的語に支配力を持たず、談話の中で役割を果たす *verbes recteurs faibles* としての用法があることが指摘された。本研究では、*comprendre* の様々な使用を観察するため、ナレーションや講義を扱ったコーパスではなく、インフォーマルな会話を収録した TUF5 コーパスを選択し、辞書や先行研究で指摘されていない動詞 *comprendre* の意味と構文を調査する。

本研究は、東京外国語大学が 2005 年から 2011 年にかけて Aix-Marseille 第 1 大学 (プロヴァンス大学) と共同で行った話し言葉コーパスプロジェクト<sup>4</sup>の会話コーパスを分析の対象とした。このコーパスでは、エクス・アン・プロヴァンス、ボルドー、パリの会話が録音され、転写されている。

上記のコーパスのうち、本研究では、現代フランス語の書き言葉と話し言葉のデータと検索ツールを提供するプラットフォーム ORFÉO (Outils et Ressources sur le Français Ecrit et Oral) で提供されているデータを使用した。Benzitoun et al. (2016) によると、

<sup>4</sup> このプロジェクトは、21 世紀 COE 「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」(2005 年度)とグローバル COE 「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」(2009 年度・2011 年度)で実施された。

TUFS コーパスは、77 個の録音データ、語数にするとおよそ 728000 語、全体の時間は、45 時間のデータが ORFÉO でアクセス可能となっている。

TUFS コーパスは、複数の年度の調査が合わさっているものであり、2005 年度に行われた調査とその他の年度に行われた調査で内容に異なる点があることを指摘しておく。古賀他 (2012) によると、2005 年度に行われた調査は、エクス・アン・プロヴァンスで行われ、大学生や大学教員、店員などがインフォーマントであった。この年度のコーパスに特徴的なのが、会話に 2 つのタイプがあることである。自由な主題(仕事や大学について、家族や友人について、休暇の計画など)による会話と、場面と役柄が設定された即興寸劇(家の交渉、銀行での手続きなど)である。2009 年度・2011 年度に行われた調査は、大学生や大学教員、施設の職員などがインフォーマントであった。会話の内容は主に、自由な主題(休暇の思い出、学生生活、仕事の内容についてなど)であった。以上 3 つ年度の調査に、2005 年から 2009 年に収集されたフランス語母語話者の会話音声資料を加えたものが今回分析するコーパスの全体像である。

分析にあたって、ORFÉO で *comprendre* の全ての活用形を検索し、*comprendre* が現れる用例を抽出した。その結果、*comprendre* を使用する例は、492 例となり、そのうち、*comprends* (1 人称及び 2 人称直説法現在形)が 182 例、原形である *comprendre* が 102 例、過去分詞の形 (*compris, comprise, comprises*) が 106 例で、この 4 つの形態が全体の約 79%を占めた。

抽出したデータを基にコーパスに現れる *comprendre* の意味と構文の調査を行った。調査は 2 段階に分けて行った。まず、意味の判別が比較的容易である「含む」を表す物理的意味と「理解」を表す認知的意味の分類を行った。その上で、コーパスに現れる物理的意味の特徴を検討した。更に、より意味の判別が困難である認知的意味を検証するべく、*comprendre* が取り得る構文別に意味と統語的特徴を検討した。具体的には、直接目的語に名詞句が来る場合、節が来る場合、挿入句的用法に分類して記述を行った。

#### 4 物理的意味と認知的意味の分布

本研究では、最初に TLFi の 2 つの大きな分類、すなわち、物理的意味である「～を含む」と認知的意味である「～を理解する」の生起数をそれぞれ調査した。調査の結果が以下の表である。

表3: TUFS コーパスにおける *comprendre* の物理的意味と認知的意味の分布□

意味分類	物理	認知	合計
生起数	12	480	492
全体に対する割合	2%	98%	100%

全体の 492 例のうち、「～を理解する」が 480 例であり、全体の約 98%を占める。それ

に対し、「～を含む」を意味する *comprendre* が使用されたのは、12 例であり、全体の 2% である。*comprendre* は、物理的な意味と認知的な意味を持つ動詞であるが、会話コーパスにおいてその意味の生起数には偏りがあることが判明した。

また、分析したコーパスで「含む」の意味を表す構文を分類したところ、以下の 4 つのタイプが観察された。

- ① SN<sup>5</sup> est compris
- ② SN y compris SN/prép
- ③ SN compris
- ④ SN tout compris

TUFS コーパスで観察された「含む」を意味する *comprendre* の構文で特徴的なのが、動詞として用いられた用法がなく、全て過去分詞の形で、形容詞、または副詞としての用法で用いられたという点である。これは、後に見ていく *comprendre* の認知的意味とは、語源は共通していても<sup>6</sup>、構文としては異なる。また、物理的な意味は、主語に物を取るのに対し、認知的な意味は、主語に人、または生物を取る<sup>7</sup>という相違点もある。このことから、コーパスを通じて共時的に観察した場合、*comprendre* の物理的な意味と認知的意味は、統語的に明確な区別がなされている。以下は、この点を踏まえながら、コーパスで観察された *comprendre* の物理的な意味を記述する。

## 5 コーパスで観察された物理的な意味

さて、コーパスで観察された 12 例のうち、6 例が④の « tout compris » 「全て込みで」、2 例が②の « y compris » 「～を含めて」という固定化された表現だった。

### (7) (旅行代理店にて)

bon avec les frais de dossier par personne on est à huit cent soixante-seize euros cinquante tout compris

ええと、一人当たりの書類の費用も合わせると、876.5 ユーロするね、全て含めて

---

<sup>5</sup> SN は、名詞句を表す。

<sup>6</sup> *Dictionnaire historique de la langue Française* (1992: 461) によると、*comprendre* は、「saisir, prendre, envahir」 「つかむ、手に取る、侵入する」と、これより乱暴な表現である、「empoigner, happer」 「つかむ、ひつつかむ」の 2 つの意味を 16 世紀まで持っていた。これらの意味は、徐々に後退していき、「englober, embrasser en un tout」 「全体を一つにまとめる」(12 世紀末)と « concevoir, saisir par l'intelligence » 「解釈する、知性により理解する」(12 世紀末から 13 世紀初め)の意味が目立っていった。

<sup>7</sup> TUFS コーパスでは、認知的意味で人または生物が主語に来ない例が 1 例観察され、機械が主語に来る例であった。「la machine comprend que la partie est finie」(10\_MD\_EM\_100224)。しかしこれは、機械を人にみたてた比喻表現で用いられており、ほとんどの場合で「人」が主語に来た。

(8) (日本のテレビ番組の話)

il y avait une émission pour toutes les générations y compris je sais pas des  
des enfants de six ans jusqu' à jusqu' à jusqu' à jusqu' à des personnes de  
soixante-dix ans

全ての世代に向けた番組がありましたよ、6歳の子から70歳の人まで含めて  
ね

(Gael)

(9) tu as presque pratiquement tous les avantages de la nationalité française y  
compris pour être fonctionnaire

あなたはフランスの国籍のほとんど全ての利点があるじゃない、公務員になるこ  
とも含めて

(fr16\_2005\_07\_05)

物理的意味と認知的意味の生起数の不均衡が観察される理由として、*compris* の用法の使用場面が限られていて、あらゆる文脈で登場する意味ではないことが考えられる。実際に、最も頻度が高かった表現である、「*tout compris*」は、旅行のプランについて語る場面、パラシュートのプランに何が含まれているかを語る場面で観察された。① *N est compris*、③ *N compris* においても同様で、何かのプラン、料金に含まれかどうか、という文脈で使用されていた。

これらに比べて「*y compris*」が現れた場面に制約は見られず、(8)と(9)に示した例でも、使用場面に共通性は見当たらない。また、(8)は、名詞が後続しているのに対し、(9)は、前置詞が後続している、という違いが観察される。Grevisse (1980)によると、「*y compris*」は、前置詞が後続する場合、「*aussi*」や「*même*」といった副詞的な意味を持つ。この研究では、「*y compris*」を「*aussi*」、「*de plus*」、「*également*」と同じ「*l'addition, l'inclusion*」「添加、包含」のカテゴリーに分類している。物理的意味には、認知的意味では見られない副詞としての用法が現れていることがコーパスでも確認された。

## 6 認知的意味の細分化

本節では、会話コーパスの TUFCS コーパスを用いて、認知動詞としての *comprendre* がどのような補語をとるのか、そして動詞の意味はどのように決まるのかを記述していく。直接目的語に名詞句を取る場合、節を取る場合、そして挿入句的用法に分けて考察していく。

### 6.1 名詞句を直接目的語に取るもの

コーパスの全体的な観察から、動詞 *comprendre* が直接目的語として取る名詞句

には、意味的な枠組みを設けることが可能であり、動詞 *comprendre* の意味解釈も直接目的語の意味特性に大きく関係することが判明した。以下は、直接目的語に現れる名詞句をその意味によって分類したものである。

#### SN V SN

##### a)(言葉に関係するもの)

[定冠詞が用いられていないもの] *un mot, deux trois mots, lyrique*

[言葉の形] *le nom d'un sport la phrase, telle partie, l'histoire, les paroles, tout son cours, le texte, des lignes de textes, lecture de presse*

[言語] *le français, l'espagnol, l'italien l'anglais le japonais*

##### b)(しくみや具体的な対象物)

*le prix, le pourquoi, la grammaire, le fonctionnement, son trip, le système de compensation, la population*

[文化的な対象物] *l'humour français, cette blague*

##### c)(人及び、人による感情に関わるもの)

*ma mère, les gens, la position de ma mère, ses arguments, sa position, sa réaction, cette volonté, ses positions, ce sentiment, cet état d'esprit, ce genre de personne*

##### d)(名詞の代用語)

*les choses, la même chose, beaucoup de choses, certaines choses, les bonnes choses de la vie, des choses que j'ai pas compris, les choses simples, quelque chose, tout, tout ce qui est entrain de se passer, tout ce qu'ils disent, tout ce qu'il dit, tout ce qu'elle dit, rien , grand-chose, ça*

a) は、「言葉に関係するもの」を表す名詞句のグループである。TLFi では、「理解」を表す定義のうち、1 つ目の「談話のレベルで、ある記号と記号内容である物との意味の関係性を知性の面で捉えること」にまとめて分類される名詞句のグループである。コーパスの観察から、直接目的語の位置に来る語に応じて *comprendre* の意味がわずかに異なっていたため、この定義を更に細分化することが可能であると明らかになった。したがって、a) に示されている語は、[定冠詞が用いられていないもの]、[言葉の形]、[言語]の 3 つのタイプに分けて検討していくことにする。

まず、a) のグループの中で、定冠詞が用いられていない名詞句に注目する。言葉に関係する語の中で、*un mot, deux trois mots* が不定冠詞を持つ形で、*lyrique* のみが冠詞を持たない形で直接目的語に使用された。また、他のグループを見ても、直接目的語に名詞句が現れる場合、定冠詞、あるいは、不定冠詞であっても、*que* 節や形容詞によって説明が加えられ、特定化された名詞が多いことが明らかである。コーパス内で *un mot* は、否定形の形でのみ使用されていた。

(10) *oui ils comprendront pas un mot euh les enfants hein tu as ils ils*

そう、何もわからないでしょう、子どもたちはね、そうですね

(10) の例が示すように、**comprendre pas un mot** は、「**pas un mot**」という固定化された表現を目的語に持ち、「**ne comprendre rien**」「全くわからない」に言い換えることができる。ここでは、**pas** を用いない肯定形の形「**comprendre un mot**」と表現することは不可能である。また、同じく **mot** が用いられている、**deux trois mots** も固定化された表現である。(11) の例で用いられる **deux trois** は、実際に文章中の単語が 2 個 3 個わかったことを示すのではなく、「少しの」「ちょっとの」単語というような意味を表現している。Gréa (2013) も「**deux-trois**」という表現は「**quelques**」のような意味を持っていることを指摘している。

(11) **lorsque tu vas comprendre deux trois mots dans la phrase tu peux essayer de comprendre la phrase**

文の中の単語が少しわかるなら、文章を推測することができるんじゃない

(20\_FD\_CB\_100225)

秋廣 (1998) の動詞 **dire** の研究でも、直接目的語に **mot** が用いられる場合、**dire un mot** 「ひとこと言う」**dire deux mots** 「ちょっと話す」のように、固定化された表現になることが指摘されている。秋廣 (1998: 42) によると、**dire** 「言う」は、その動作に「言葉」が伴っているため、直接目的語として現れる語彙の中に「言葉」がある。**comprendre** 「理解する」も、TLFi の 1 つ目の定義が「記号と記号内容である物との意味の関係性を知性の面で捉えること」であるように、「言葉」との関係性が深い動詞であるため、直接目的語に「言葉」という語彙を取り、固定化された表現を持つ。

また、直接目的語の名詞句が冠詞を持たない状態で置かれている場合、定冠詞を持つ場合と異なる意味を持つ。

(12) (音楽についての話)

A: **oui parce que il y a le problème de euh de lyriques**

B: **est hum**

A: **-ce que non vous ne comprenez pas lyriques**

C: **hum hum**

A: **ça veut dire le que veut dire lyriques**

B: **euh paroles**

A: **そう、だって、lyrique の問題があるもの**

B: **うん**

A: **あれ、lyrique がわかりませんか**

C: **うん**

A: **つまり、lyrique ってどういう意味だっけ**

(12) の例の « lyrique » は、「詩」という意味を持つが、定冠詞が用いられた形、« comprendre le lyrique » である場合と、無冠詞の形 « comprendre lyrique » である場合とで、comprendre は、異なる意味を持つ。前者の場合、「詩の内容を理解する」になるのに対し、後者の場合、「lyrique という言葉を知る」という意味になる。つまり、冠詞を持たない状態である場合、その語は実態を持たず、語それ自体を指すようになる。ここで用いられる comprendre は、connaître と同様の意味を持つため、知識に関わる理解となっている。

次いで、定冠詞が用いられている、言葉に関係する他の例を見ていく。まずは、les paroles, tout son cours, le texte など、様々な言葉の形が直接目的語の位置に来る場合である。これらは、comprendre と直接目的語の間に « ce que voulait dire » を挿入することができることから、様々な言葉の形が「伝えたい内容」に関わる理解であると考えられる。この場合、comprendre は、伝えたい内容を捉える意味を持ち、(13) のように saisir に言い換えられる場合や (14) のように entendre に近い意味を持つ場合がある。

(13) j'avais pas compris le texte en français déjà comment tu veux que je le traduise en italien

フランス語のテキストがまず分からなかったんだから、どうやってイタリア語に訳すっていうのよ

(10CJTD110913)

(14) mais tu comprends pas les paroles parce que ils hurlent

叫んでいるから、歌詞がわからない。

(Gael)

一方で、a) の言葉に関係するグループの中で、ce que voulait dire を挿入できない例も観察された。それが、直接目的語に「言語」が来る場合である。

(15) on comprend un peu le japonais de temps temps et on comprend euh l'espagnol

時々少しは日本語もわかるし、スペイン語もわかるし

(03\_MW\_CD\_100222)

19 世紀の終わりに出版されたフランス語辞書の Le Littré の « entendre » の項目では、共通する意味を持つ、entendre、concevoir、comprendre の 3 つの動詞を比較しているが、ここでは、comprendre の後に「言語」を用いることはあまりないと指摘されている<sup>8</sup>。しかしながら、本コーパスでは、このような外国語を直接目的語として取る形が多くみ

<sup>8</sup> « j'entends l'allemand, je le sais, j'y suis habile ; je comprends l'allemand dirait moins. » (Le

られた。

次いで、b)の「しくみや具体的な対象物」のグループについて見ていく。b)に挙げられた名詞句は、コーパス内で直接目的語の位置に現れることで、*comprendre* に *voir* や *concevoir* の意味を持たせる。このグループの *comprendre* の意味としては、冒頭にあげた TLFi の定義では、2a 「ある物を説明するものに明解な考えを得る」、2b 「ある物に対して個人的な着想を得る」、3a 「ある物の重要性を認識する」の意味のいずれかの意味で用いられている。いずれにせよ、直接目的語に来る名詞についての理解であるとまとめることができ、知識に関わる理解、伝えたい内容に関する理解、外国語がわかることとは異なるタイプとして位置付けることができる。このグループに分類されている名詞句は、(16) の *le fonctionnement* のように、名詞句自体が理由やしくみを表すものと、(17) のような、具体的な対象物がある。

(16) *après une fois que tu as compris le fonctionnement*

そして、一度しくみがわかれば

(01BHGM110912)

(17) *de toute façon rien ne remplace le fait d'aller dans un pays pour pour mieux comprendre la culture mieux comprendre la population et tout ça les moeurs les coutumes*

どのみち、現地に行く以上のことはないね、文化をよりよく理解するには、その国の人々をよりよく理解するには、それからしきたりも、慣習も

(05\_SB\_LZ\_100223)

(18) (フランス語の冗談について)

OG: *ah mais je te dis je je comprends pas l'humour français*

NH: *ah c'est pas possible*

OG: *j'ai jamais vécu en France l'humour français pour moi c' est*

NH: *bon mais ça c'est pas*

OG: *ben si*

NH: *j'ai jamais vécu en Angleterre mais j'adore l'humour anglais*

OG: 言うておくけど、フランスの冗談がわからない

NH: 信じられない

OG: フランスに住んだことないから、フランスの冗談は、私にとっては、

NH: だからといって、そんなわけ

OG: いやいや、あるよ

NH: 私はイギリスに住んだことがないけど、イギリスの冗談大好きだよ

(01\_OG\_NH\_100222)

(18) の *l'humour français* 「フランスの冗談」のような文化的な対象物が直接目的

---

Littré)

語の位置に現れた場合、単なる知識や内容の理解ではなく、発話者の価値判断的な意味が *comprendre* に表されている。(18) の例で、ギュイアンヌ出身である OG がわからないのは、冗談が何を伝えたいのかではなく、冗談の何が面白いのか、冗談の良さである。ここでの理解には、発話者の価値判断が現れており、「*je n'accepte pas l'humour français*」と言い換えることができ、b) の他の名詞句のタイプとは区別される。

c) のグループの名詞句は、*ma mère* や *sa réaction* など、人や人の感情に関わるものがある。このグループに特徴的なのは、他のグループと比較して、所有形容詞の現れる頻度が高い点である。これは、これまでのグループで見してきた、言語や世の中の事象に対する理解ではなく、人の立場や感情があって成り立つ理解であることが理由の一つであると考えられる。

(19) (家族の事情から母が結婚式に来ないことについて)

*je ne peux pas lui en vouloir parce que je comprends ses arguments et ses et ses et sa volonté non mais si je comprends sa position*

恨むなんてできないよ、だってお母さんの言っていることもわかるし、気持ちもわかるし、だってそう、彼女の立場もわかるし

(Dasilva\_Richard\_confidences\_sur\_canap)

また、このタイプは、直接目的語が代名詞化される場合、*le, la, les* に置き換えられることが多い。

(20) (ヴォルテールとルソーについて)

DMC: *il (Rousseau) avait un terrain favorable à la paranoïa et avec l'âge ça s'est pas amélioré justement c'est de toute façon c'~ j~ je le je le comprends*

MA: *mais c'est le manque de confiance en soi hein* DMC: *c'est ça je le comprends j'ai la même chose...*

DMC: *彼は、パラノイアの体質があって、歳と共にあまりよくならなかったのよ、どのみち、私は彼のことがわかるわ*

MA: *自分への自信の欠如ね*

DMC: *そう、彼がわかる、私も同じことがある...*

(07MADMC110912)

最後に d) のグループを観察していく。このグループには、名詞の代理語となるものが挙げられており、不定代名詞である *les choses, rien* や、指示代名詞である *ça* が分類される。

指示代名詞は、不定代名詞とは異なり照応機能を持っているが、TUFS コーパスでは、会話コーパスという性格から、口語で用いられる *ça* が観察された。

(21) (学校案内係の話)

L2: alors j'explique aux étudiants l'université le secteur D je leur dis à ma main gauche le secteur C à ma main droite c'est de l'autre côté là-bas

L1: oui oui

L2: NNAAMMEE est de ce côté il est en D son bureau mh ensuite bon on prend les escaliers tout ce qui passe au-dessus de ma tête voyez c'est le A dans la faculté il y a trois U un deux et trois

L1: et pourtant c'est U1 c'est pas U3

L2: voilà voilà et derrière sur mes épaules c'est le secteur B mh mh et là ils viennent là je dis maintenant si vous comprenez **ça** vous vous perdrez jamais.

L2: 学生に大学を説明するのですよ、Dセクターは、私の左側に、Cセクターは私の右側に、反対側のあそこ

L1: うんうん

L2: NNAAMMEE はこっち側で、彼の事務室はDにある。それから、私の上にある階段を登ると、わかりますか、Aがあります。この大学には3つの学部があります。1、2、3。

L1: だけど、U1であってU3じゃないね。

L2: そうそう。そして私の後ろには、Bセクターがある。彼ら(学生)が来た時、私は、これがわかったら迷子にはならないよ、て言う。

( fr04\_2005\_07\_04<sup>9</sup>)

(21) において、comprendre の直接目的語に現れる **ça** が照応しているのは、下線部が示している、大学案内係の校内の説明の内容全体である。このように **ça** が示す内容は、広範囲に及ぶため、どこまでが照応されているのか、特定することが難しいことが多い。また、**ça** は名詞を照応する機能も持つが、本研究で分析したコーパスでは、動詞の後にこのような機能を持つ **ça** が現れる実例は観察されなかった。

## 6.2 直接目的語が節の場合

5.1 では、様々なタイプの名詞句を取る comprendre の用法について見てきたが、ここでは、直接目的語の位置に現れることのできる様々な節について検討していく。コーパスの観察から、主に以下の3つのタイプの節が comprendre の直接目的語の位置に現れた。

### 1) que 節

<sup>9</sup> コーパス内の太字と下線は筆者による。

- 2) comment 節
- 3) pourquoi 節

先行研究で指摘されたように、**que** 節には、直説法を導くものと接続法を導くものがあり、前者は、単なる認識を表すのに対して、後者は、情緒的な理解を表現することができる。

- (22) **tu pleures et les gens ils comprennent que tu es pas bien hein**  
泣くと、みんなあなたがよくないことがわかるでしょ  
(01BHGM110912)
- (23) **quoi ben je comprends que ça soit fait un choc quoi c'est peu~ c'est très traumatisant**  
それがショックであったことはわかるよ、ちょっと…かなりトラウマになることだよ  
(03IAGJ110912)

また、2) の **comment** 節、3) の **pourquoi** 節に関しても、単なる認識の理解と情緒的な理解の両方を表すことができる。ただ、**que** 節とは異なり、従属節の動詞の活用に変化はない。

- (24) **une fois qu'il a compris comment ça marchait enfin du moins**  
一度、どんな風に動いているかわかったら  
(05\_SB\_LZ\_100223)
- (25) **je comprends même pas les gens quoi comment ils peuvent regarder ça quoi**  
その人たちがわからないよ、どうやったらこれを見ることができるのか  
(Gael)

直接目的語に節を従える場合も、**comprendre** の意味は、目的語の表す意味に応じて変化しており、直接目的語の位置に現れる 1)~3) の節と **comprendre** の関係は、先に検証した名詞句と **comprendre** の関係性と共通している。

### 6.3 挿入句に現れる **comprendre**

ここまで、動詞 **comprendre** が直接目的語を従える例について考察してきたが、直接目的語を従えない実例も多く観察された。ここでは、挿入句に用いられた **comprendre** について見ていく。

- (26) **donc si l'essentiel c'est d'être dans le pays tu comprends euh parce qu'évidemment quand tu quand tu fais un trajet si tu devais faire Marseille**

Madrid bon ça te fait augmenter les prix

つまり、もし、重要なのは、その国にいてることならね、だって、もしマルセイユからマドリッドに行かなければならなかったら旅費が高くなるでしょ

(fr16\_2005\_07\_05)

(27) (街並みについて)

CB: j'ose pas prendre de photo avec mon portable tu comprends mettre cette horreur sur mon portable

CV: c'est non non le fais pas attends

CB: 携帯で写真を撮る勇気がないのよ、あの恐ろしいものを携帯に入れておくなんて

CV: いや、それはないない、やらないで

(19\_CB\_CV\_100225)

上記の例の *comprendre* は、直説法現在形二人称の形で用いられて、相手に対して「分かる?」、「～ね」と同意を求める表現として用いられる。ただし、この同意を求める表現は、必ずしも相手からの同意が必要というわけではない。発話者が対話者に向けて « *tu comprends* » を発話した (26) と (27) の例のいずれも、対話者は、この呼びかけに « *oui* » や « *non* » と応えていない。

Andersen (2007) では、(26) と (27) の例のように、統語構造の前または後ろに置かれる « *tu comprends* » の談話標識としての役割について指摘されたが、統語構造の間に置かれる場合についての指摘はされなかった。TUFS コーパス では、「*tu comprends*」が統語構造の間に置かれた例も観察された。以下は、従属接続詞 *parce que* の後に用いられている例である。

(28) (鍵前をかけたままの人へ注意をするふりをする)

LF: est-ce que vous pourriez arrêter de laisser des cadenas

BM: parce que vous comprenez c'est et c'est pas que c'est pas joli ça peut être pris comme de l'art mais

LF: mais on est pas dans une euh une expo

LF: 鍵前を残しておくのをやめていただけますか

BM: だって、そうでしょ、綺麗じゃないってわけじゃないですけど、芸術として捉えることもできますけど

LF: でも、展覧会でもあるまいし

(08LFBM110912)

挿入節に現れる *comprendre* の形は、直説法二人称以外の形でも観察された。

(29) の例は、「 je comprends pas » の形で現れている。

(29) (録音について)

KS: mais je comprends pas ils enfin euh ils ont pas fait de pub pour ça en fait pour l'enregistrement

LR: non pas enfin ils en ont parlé dans la promo de japonais seulement

KS: だけど、彼らはこれのために、つまり、録音のために宣伝したわけじゃないでしょ。

LR: そう、日本語科の同期にだけ話していたよ

(16KSLR110914)

直接目的語を持たない挿入句の *comprendre* の意味をどのように捉えることができるのか、また、談話の中で果たす役割については今後の研究で明らかにしていきたい。

## 7. おわりに

これまでの研究では、コーパスを用いて、動詞 *comprendre* の意味と用法を記述的に研究する取り組みはなされなかった。したがって、本研究では、TUFS コーパスを用いて、動詞 *comprendre* の構文と意味を記述することを目的とした。

まず、*comprendre* の物理的意味と認知的意味に分類したところ、物理的意味が使用される場面や用法は非常に限定的であり、語源が同じであっても認知的意味の用法とは異なることが判明した。コーパスで観察された *comprendre* の物理的意味は、認知的意味の *comprendre* と明確な統語環境の違いが観察された。認知的意味の *comprendre* は、動詞として用いられることが多いのに対して、物理的意味の *comprendre* は、形容詞と副詞の用法で用いられていた。

また、認知的な意味には、動詞と補語の結びつきが強いタイプと挿入句のように結びつきの弱いタイプに分類することができた。動詞との結びつきが強いタイプは、直節目的語の位置にある名詞句ないしは節の語彙的特徴及び意味特性が *comprendre* の意味を規定する上で重要な役割を果たしている。一方で、挿入句に現れる *comprendre* は、その意味が挿入される節の内容に依拠しないため、他動詞構文としての性格を持たずに現れる。

さらに、挿入句の用法についてだが、これらが談話の中で果たす役割については、分析対象のコーパスを拡大し、データを増やし、それぞれの用法をさらに細かく検討していくことでより多くのことが明らかになるだろう。今回は、*comprendre* の全体的な記述を行うことが目的であり、挿入句の実例をいくつか挙げるのに留めたが、この問題については、深く掘り下げていく必要があるため、今後の研究課題としたい。

## 参考文献

- ANDERSEN, H. (2007). Marqueurs discursifs propositionnels. *Langue française*, 2(2), 13-28.  
<<https://doi.org/10.3917/lf.154.0013>>
- BAUNAZ, L. (2017). Embedding verbs and subjunctive mood: The emotive factor, In S. Perpiñán, D. Heap, I. Moreno-Villamar and A. Soto-Corominas (Ed.). *Romance Languages and Linguistic Theory 11: Selected papers from the 44th Linguistic Symposium on Romance Languages (LSRL)*, London, Ontario, Amsterdam: John Benjamins, 9-31.
- BENZITOUN, C., DEBAISIEUX, J.-M., DEULODEU, J. (2016). Le projet ORFÉO: un corpus d'étude pour le français contemporain, *Corpus 15, Actes du colloque Corpus de Français Parlés et Français Parlés des Corpus*. <<https://doi.org/10.4000/corpus.2936>>
- BLANCHE-BENVENISTE, C. (1989). Construction verbales « en incise » et rection faible des verbes, *Recherche sur le français parlé*, 9, 53-74.
- DAMOURETTE, J. et PICHON, E. (1911-1936). *Essai de grammaire de la langue française: des mots à la pensée*. Tome 5 . Paris: d'Arthey.
- DOSTIE, G. (2004). *Pragmaticalisation et marqueurs discursifs: Analyse sémantique et traitement lexicographique*. Bruxelles: De Boeck Duculot.
- GRÉA, P. (2013). « Deux-trois mots » sur la question des déterminants de petite quantité: pluriel continu et perception sémantique. *Journal of French Language Studies*, 23, Cambridge: Cambridge University Press, 193-219. doi: 10.1017/S0959269512000191.
- GREVISSE, M. (1980). *Le bon usage: grammaire française, avec des remarques sur la langue française d'aujourd'hui*. 11e éd. Paris: Duculot
- SAKAGAMI, R. (2012). Une étude contrastive sur le verbe cognitif en japonais et en français 4- Valeur sémantique du verbe japonais « wakaru » et leur traduction en français-, *Studies of Language and Culture*, 16, Kanazawa : Foreign Language Institute Kanazawa University, 39-61.
- 秋廣尚恵 (1998) 「現代フランス語の動詞 dire の構文および意味特徴についての記述的研究」『言語・地域文化研究』4, 39-58.
- 古賀健太郎・秋廣尚恵・川口裕司 (2012) 「Aix 話し言葉コーパスプロジェクト」『ふらんぼー』37, 東京外国語大学フランス語研究室, 37-54.

## 辞書・コーパス

- LITTRÉ, E. (1873-1874). *Dictionnaire de la langue française*. Paris, L. Hachette, Electronic version created by François Gannaz. <<http://www.littre.org>> (最終アクセス 2020/10/24)
- ORFÉO (Outils et Ressources sur le Français Ecrit et Oral)  
<<https://repository.ortolang.fr/api/content/cefc-orfeo/10/documentation/site-orfeo/home/index.html>> (最終アクセス 2021/1/31)
- REY, A., TOMI, M., HORDÉ, T., TANET, C. (1992). *Dictionnaire historique de la langue française*. Paris: Dictionnaires Le Robert.
- TLFi: *Trésor de la langue Française informatisé*, <http://www.atilf.fr/tlfi>, ATILF - CNRS & Université de Lorraine. (最終アクセス 2021/1/31)
- 『ジーニアス英和辞典 (第5版)』(2014). 大修館書店.

